

令和元年度病床機能報告結果に基づく各地域の病床機能の過不足状況

構想区域	病床機能区分	2019(R01)年度 病床機能報告 結果(A)	2025年の 必要病床数(※1) (B)	必要病床数との 比較(A-B)	過不足 状況(※2)
横浜	高度急性期	4,535	4,187	348	過剰
	急性期	10,808	10,687	121	過剰
	回復期	3,255	8,883	△ 5,628	
	慢性期	4,460	6,398	△ 1,938	
川崎北部	高度急性期	1,150	687	463	過剰
	急性期	2,004	1,808	196	過剰
	回復期	306	1,437	△ 1,131	
	慢性期	881	1,171	△ 290	
川崎南部	高度急性期	184	856	△ 672	
	急性期	3,784	2,327	1,457	過剰
	回復期	346	1,569	△ 1,223	
	慢性期	443	572	△ 129	
相模原	高度急性期	848	808	40	過剰
	急性期	2,441	2,305	136	過剰
	回復期	331	1,710	△ 1,379	
	慢性期	2,548	2,413	135	過剰
横須賀・三浦	高度急性期	1,469	780	689	過剰
	急性期	1,796	2,210	△ 414	
	回復期	787	1,913	△ 1,126	
	慢性期	1,051	1,227	△ 176	
湘南東部	高度急性期	498	539	△ 41	
	急性期	2,059	1,585	474	過剰
	回復期	573	1,303	△ 730	
	慢性期	1,086	1,150	△ 64	
湘南西部	高度急性期	1,128	752	376	過剰
	急性期	1,568	2,140	△ 572	
	回復期	610	1,404	△ 794	
	慢性期	1,220	1,205	15	過剰
県央	高度急性期	98	541	△ 443	
	急性期	3,117	2,071	1,046	過剰
	回復期	1,188	1,852	△ 664	
	慢性期	1,049	1,239	△ 190	
県西	高度急性期	327	269	58	過剰
	急性期	1,276	777	499	過剰
	回復期	263	863	△ 600	
	慢性期	1,113	772	341	過剰

※1: 全国一律の方法により算出した2025年の医療需要の将来推計に基づく推計値であり、必ずしも将来の医療提供体制の変動要素をすべて勘案して算出したものではない。

※2: 2019(令和元)年度病床機能報告に基づく各病床機能の病床数(A)と2025年の必要病床数(B)を比較して過不足の見込みを判断したものであり、必ずしも全ての地域の医療事情を勘案しているものではない。